

## 6次産業が切り開く沖縄観光の未来

沖縄県立北部農林高等学校 2年生

日高 大貴

亜熱帯気候に属する沖縄。私はそんな沖縄県に生まれ、沖縄県特有の気候と食物、文化に囲まれてきて育ってきました。

私の祖父は名護でタンカンの栽培をしています。亜熱帯性柑橘類で、甘くジューシーなその果汁は私が小さなころから親しんできた味です。もちろん、手伝いもよく行いました。小学生の時から管理作業の手伝いを行い、たわわに実ったタンカン一つ一つを丁寧に収穫したものです。これらの経験から私は祖父が栽培するタンカンに愛着が生まれ、やがて誇りとなりました。「このタンカンを色んな場所へ提供したい」私が自然とそう思うのにさほど時間はかかりませんでした。

熱帯果樹の専門的な知識を身に着け、将来は農業に従事したいという思いから、中学卒業後の進路選択では迷わず北部農林高校を選び、現在は果樹を専攻し、専門的な知識と技術について学んでいます。日々の実習ではマンゴーの「玉つり」「パッションフルーツの受粉」等、私が学びたかったものがそこにはありました。他にも植物に水を与える「かん水」雑草を抜き取る、「除草」といった地道な作業もあります。どれも果樹を栽培する上で欠かせないもので、これらの経験が私の専門知識と技術を深めてくれているのです。ただ、私は農業高校で勉強していくうちに辛い事実も知ることになります。それは農業の担い手不足です。今後、農業の後継者不足による国内食料自給率の低下といった諸問題がより深刻化する懸念があります。私はどうにかこの問題が解決されないかと考えました。そこで考えたのが「観光」と「農業」の融合です。

近年「6次産業」というワードを良く耳にしますが、皆さんはご存知でしょうか？農産物の生産から加工、はたまた、地域資源を取り入れた観光農園によるサービス等を一括し

て行うことを6次産業といいます。私はこの6次産業を踏まえた観光農園の経営こそ沖縄農業の振興、いや、観光産業も含めた沖縄県全体が発展するものだと考え、私の夢である3つの案を提案します。

一つめに沖縄県内にしかできない農業体験です。沖縄県の基幹作物であるサトウキビやその他のマンゴー、パインアップル、ドラゴンフルーツといった熱帯果樹。野菜ではゴーヤーや、ナーベラー等。私は観光農園を通して、農業の始発点である「栽培」を身近に体験してもらいたいと強く思います。これまで、個人の農家さんや観光農園においても収穫体験等は行われてきたと思います。収穫の喜びを知ることはもちろん大切ですが、私は、ぜひ気軽に土を耕したり、種まきや肥料の与え方といった一般管理を経験してもらいたいのです。どれも、大変な作業のイメージがあり、気軽には言いにくいかもしれませんが、ですが、小さい子供たちに土を触らせてみてはどうでしょうか。断言こそできませんが、私には土を触ることで喜ぶ子供たちの笑顔が想像できます。なぜ、それを言えるのか、それは私自身が小さい頃から祖父の畑を手伝っていたからなのです。小さい子供、私達の世代や成人となった大人たち、ご高齢の方たちもそうですが、近代化していく今だからこそ手軽に土を触る機会を増やすべきなのです。農業の入り口は楽しさと喜びが必要です。

二つめに商品開発です。地域環境を活かした、熱帯果樹の栽培を行い、その果物を利用した製品の開発。具体的な例としては、マンゴーが原料の清涼飲料水やお酒を作ったり、パッションフルーツや、パインアップルを原料としたジャムやお菓子。更に、「森のアイスクリーム」との異名をもつアテモヤから、実際にアイスクリームづくり等々。沖縄県だからこそ栽培できる果樹や野菜で県内はもちろん、県外の観光客を喜ばせられたら、どんなに嬉しいことでしょう。

三つめに小さい子供たちへの「食育」です。栽培、収穫、加工、調理といったひと通りの農業体験を行うことで、子供たちに「命」を頂くことのありがたみ、それと同時に沖縄県の食文化の豊かさや、食糧の大切さ、何より、その食を支える「農業」を営む人たち

の存在を知ってもらいたいと思います。

どうですか？6次産業を踏まえた観光農園は沖縄県の観光と農業を盛り上げていく力があると思いませんか？

私は6次産業から発信する農業を多くの人に体験してもらいたいのです。栽培する苦勞、収穫する達成感、加工、開発する期待感、食べる喜び。ひと通りの農業を体験してもらおう。それが農業を知るきっかけになれば良いのです。その入り口は沖縄県をリードしてきた総合産業である「観光」なのです。

6次産業を主とした観光農園を推進することで観光産業の面はもちろん、一方で沖縄県の農業発展にも繋げられると思うのです。観光は農業の未来を救い、農業は現在の観光を盛り上げる。双方が共有する力は沖縄の発展に繋がるのです。

科学技術が発展し、豊かになる私達の暮らし。ふと農業に目を配ると、農業から得られていた豊かさに注目が集まりにくくなっていると感じます。農業従事者が増え、地産地消が実現し、国内自給率が向上することで、私達の暮らしに「農業の豊かさ」を再び感じられる時代がやってくると思うのです。

沖縄県の農業発展に必要なもの。それは述べた通り、「6次産業」と「沖縄の観光」なのです。未来を照らす観光産業が農業と共に歩み、私達に豊かな暮らしを与えてくれると確信します。そしてそれを実現するため、私も努力していきます。沖縄県の為に。